



KANSAI UNIVERSITY

関西大学 シラバスガイド

2024.11

関西大学 教育推進部

関西大学 シラバスガイド

Contents

I シラバス作成について

シラバスとは.....	2
シラバス作成のメリット	2
簡単!シラバスの入稿方法	2
教育のPDCAとシラバス作成の関係性	3
1つの授業と「学部・研究科等の教育目標」をつなぐシラバス	3
シラバス項目.....	4
シラバス記入上のポイント(対面授業)	8
オンデマンド配信授業の実施(シラバス作成)にあたって	9
オンデマンド配信授業の授業設計を考える	10
シラバス記入上のポイント(オンデマンド配信授業)	11
オンデマンド配信授業実施ガイドライン	12

II 大学教育のTOPICS

1 授業設計と実施

TOPIC① 授業時間外学習を促すコツ.....	14
TOPIC② アクティブラーニングの推進	14
TOPIC③ 学習意欲や学習効果を高める「教員からのフィードバック」の有効性...	15

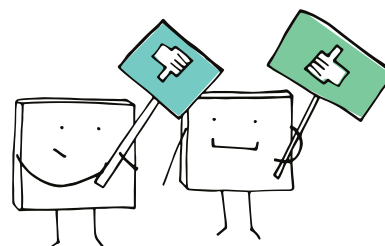
2 学習評価と学習成果

TOPIC④ ルーブリックの評価を授業でどのように使うのか	16
TOPIC⑤ 「ルーブリックの使い方ガイド」の閲覧・入手.....	16
TOPIC⑥ ニューノーマルの学習評価をどう考え実施するのか.....	17
TOPIC⑦ 「授業評価アンケート」から学習成果を問う「授業アンケート」へ	17

3 教育支援と学習リソース

TOPIC⑧ 教育支援ツールの紹介.....	18
TOPIC⑨ 学部学生の日本語の文章作成をサポートする「ライティングラボ」...	18
TOPIC⑩ 教育・学習におけるChatGPT等の生成系AIツールの利活用について ..	19
TOPIC⑪ 合理的配慮への対応と障がいのある学生に対する支援	19

I シラバス作成について



シラバスとは

シラバスは学生と大学・授業担当者とのコミュニケーションツールであり、学生が履修しようとする授業科目の目的・内容・計画・成績評価方法などをあらかじめ学生に提示し、授業の教育目標を的確に学生が理解することを目的としています。

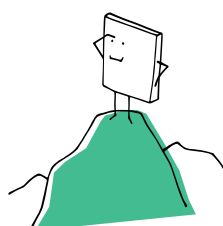
特に、学位授与の方針（＝学部・研究科等の教育目標）を意識してシラバスを作成することで、学部・研究科等の教育理念と個々に行われる授業の目的、そして当該授業を通じて達成されるべき到達目標に関係性が生まれるだけでなく、大学全体として考動力ある人材を育成することにつながります。

また、シラバスを作成・明示することは義務化されており、大学設置基準「成績評価基準等の明示等（第25条の2関係）」において、事前に年間の授業計画を学生に示すことが定められています。

シラバス作成のメリット

学生にとって

- ・ 授業を選ぶ際の重要情報！
- ・ 学習計画が立てられる！



教員にとって

- ・ 授業計画の立案ができる！
- ・ 教員間で授業内容が共有できる！

簡単！シラバスの入稿方法

1 ウェブシラバスシステムへのアクセス



関西大学ウェブサイト
(<https://www.kansai-u.ac.jp>) 内

右上[メニュー]⇒[学生・教職員専用(インフォメーションシステムほか)]⇒[インフォメーションシステム]をクリックすると、ログイン画面が表示されます。



利用者IDとパスワードを入力し[ログイン]をクリックします。



インフォメーションシステム・トップページが表示されます。左メニュー[教務情報]⇒[シラバス入力]をクリックします。

注意事項

ウェブシラバスシステムは別ウィンドウで起動しますが、すべての入力作業が終るまで絶対にトップページを閉じないでください。入力中のデータが失われます。

2 授業科目選択

担当科目一覧						
シラバス登録する授業科目を選んでください						
学部・研究科	授業形態	授業科目名 (管理番号)	組	状況	選択	合併情報
商	春	経済入門 140122(044820)	1	待入中	登録	
商	春	経済入門 140123(044820)	2	待入中	登録	

シラバス担当科目一覧画面が表示されます。初期状態はすべての科目の「状況」欄が「未入力」となっています。作成する科目の「登録」ボタンをクリックしてください。

※担任科目のうちシラバス入力が必要な授業科目については、「状況」欄が「登録不要」となっています。

➡ シラバス入力へ

3 お願い

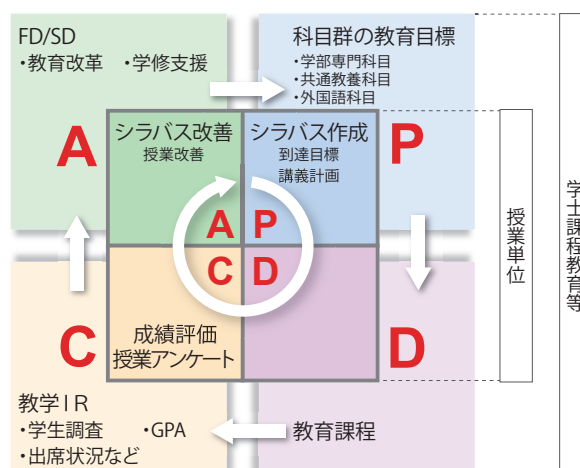
入力が終わりましたら、締切日まで、担当するすべての科目の「状況」欄が「公開待ち」となっていることをご確認ください。

教育のPDCA とシラバス作成の関係性

授業目的や到達目標と、学部・研究科等の教育目標との関係が明確になっているかを確認のうえ、シラバス作成に取り組んでください。

また、シラバスの作成にあたっては、教育のPDCAのプロセスを意識して作成することが重要です。到達目標や講義計画などはPlanであり、Doは計画に基づく授業実施、Checkは成績評価や授業アンケートによる授業実施結果の検討をさします。さらにActionは、検討結果に基づく次の結果に向けた、シラバス改善や授業改善を意味します。

シラバス作成後においても、シラバスを活用した講義を運営し、適切な評価による結果をもとに教育内容や方法等の改善を継続的に行っていくことが重要となります。



1つの授業と「学部・研究科等の教育目標」をつなぐシラバス

2020年度以降のシラバスでは、科目ごとに「学部・研究科等が定める教育目標」を明示することになりました。「学部・研究科等の教育目標」と担任する科目の関係性を整理することで、教育課程（カリキュラム）を通じて育成すべき学力・資質能力を可視化することが目的です。

本学が掲げる「考動力（自らの頭で自主的によく考え、自律的かつ積極的に行動する力）」を具現化する資質能力を「5つの力・10の能力」に整理し、「考動力コンピテンシー」として設定しており、「学部・研究科等の教育目標」もこれに準じています。

授業担任者は、「学部・研究科等の教育目標」を確認のうえ、それを踏まえて、担当する科目の「到達目標」や「基準・評価」を検討いただき、シラバスにおいて学生に明示いただきますようお願いいたします。



シラバス項目

※以下の内容は、全学共通の内容であり、学部・研究科等個々の留意点等は別途ご案内します。

1 授業概要

(1) 授業種別（入力不要）

「講義（対面）」「講義（遠隔）」「外国語科目（対面）」「外国語科目（遠隔）」「演習（対面）」「演習（遠隔）」「実験・実習・製図（対面）」「実験・実習・製図（遠隔）」「その他」のいずれかを初期設定していますので、ご確認ください。

(2) 言語（必須・プルダウン）

授業で主に使用する言語をプルダウン選択で設定してください。

(3) 授業概要（必須）

授業全体を通してのテーマ、授業内容の概略などを明確に記述してください。学生が何のために当該授業を履修するのかについて、当該授業の位置づけや学位授与方針を踏まえて記述してください。授業を履修する学生の持つ知識で理解できる範囲の言葉で記述してください。

(4) 学位授与方針との関係（入力不要）

各学部・研究科等が定める「教育目標」を示しています。

教育目標は「学力の3要素」①知識・技能の観点、②思考力・判断力・表現力等の能力の観点、③主体的な態度の観点から構成されています。

当該科目で養う能力が教育目標に定められた能力にどのように結びつくのかを明らかにしたうえで、授業や成績評価などを行うことで、学生にわかりやすく学修成果を説明することにもつながります。

※表示されている内容は、学部・研究科等が設定した内容であり、担任者が変更することはできません。

※複数学部開講科目については、開講学部・研究科等の教育目標が表示されます。他学部・研究科等の学生には、開講学部の教育目標が表示されていることがわかるように付記しています。

(5) 到達目標（必須）

(4) の「各学部・研究科等の教育目標」を踏まえ、授業の到達目標をわかりやすく簡潔に記述してください。

初期値に上記「学力の3要素」の枠があり、前年度入力した担任者はその内容が予め挿入されています。3要素全てを記述する必要はありませんが、①～③の項目名に沿って到達目標を記述してください。

※到達目標は、その授業を通じて学生が身につけることができる学力を示すため、学生を主語とした文章にしてください。

また、評価可能な形で、より具体的に記述することが望まれます。

到達目標（例示）

①知識・技能の観点

- ・メディアを利用したいいくつかの授業実践例とその効果と課題について説明できる。

②思考力・判断力・表現力等の能力の観点

- ・学習目標を達成するために適したメディアを選択し、それを活用した簡単な教材やワークショップをデザインできる。

③主体的な態度の観点

- ・ICTを活用した教育実践を実施しようとする意欲を高めることができる。

(6) 授業手法（必須）

該当する授業手法にチェックを入れてください（複数回答可）。

⑦その他の手法は、①～⑥以外の手法をお使いの場合は記載してください。

具体的な内容については、「授業計画」に記載してください。

2 授業計画

(1) 授業計画（必須）

本学は、学部等が指定した一部の科目を除き、全授業回を対面で実施することを原則とします。15回の講義で、到達目標が達成できる計画を記述してください。各週について、具体的かつ明確な記述にしてください。同一テーマの授業を複数の週にわたって行う場合は「第4～6週」等のようにまとめて記述していただいても結構です。

(2) 授業時間外学習（必須）

予習・復習などの授業時間外学習の指示を下記のように記述してください。授業時間外で学習する内容や1週あたりの時間など、学生が予復習に関する学習計画が立てられるようにご記入をお願いいたします。

授業時間外学習（例示）

- (例①) 概念の定義、学説や判例の内容をしっかりと理解できるよう、テキストを読み込んでください。
- (例②) 本授業は、授業内にグループワークの時間を確保するため、教科書をまずは読んでくることを予習として毎回の授業に課します。
- (例③) 本授業では、授業後に課題を課します。次の授業までに関大LMSに提出してください。この課題には30分程度かかります。
- (例④) 本授業では採点から授業を開始しますので、事前に関大LMSにある小テストを受けてください。

3 成績評価の方法・基準・評価

(1) 方法①（必須・プルダウン）

評価方法はプルダウン選択で設定してください。

成績評価の方法

【必須項目】 1～5のいずれかを選択してください。

1. 定期試験（筆記試験）の成績で評価する。
2. 定期試験（筆記試験）と平常成績で総合評価する。
3. 定期試験を行わず、到達度の確認（筆記による学力確認）で評価する。
4. 定期試験を行わず、到達度の確認（筆記による学力確認）と平常成績で総合評価する。
5. 定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

(2) 方法②（必須・記述式）

選択した方法①の評価割合を示してください。

(例) 定期試験（筆記試験）：70% 小テスト・ミニッツペーパー：30%

なお、(1)方法①において、3・4を選択された場合、以下の文言が自動挿入されます。挿入された文言は、削除しないでください。

履修者が多数になった場合には、成績評価方法を「定期試験（16週目）」に変更することがあります。成績評価方法が変更になった場合は、インフォメーションシステム等で連絡します。

(3) 基準・評価（必須・記述式）

初期値に①～③の「学力の3要素」が挿入されています。「到達目標」に合わせて、基準や評価の方針・割合についてもご記入ください。

なお、出席点については、総合的に評価する中で出席を加味することは問題ありませんが、出席のみである程度の点数を与えるなどの評価方法は記載しないでください。

【プルダウンで選択する成績評価方法との関係】

(共通教養科目・専門教育科目)

プルダウンで選択する 成績評価方法	試験実施期間	採点対象	追試験等対象
1、2	授業期間終了後の定期試験期間中 (16 週目以降)	定期試験を受験した者のみ採点 対象	やむを得ない理由で定期試験を欠 席した者
3、4	授業 15 週目に到達度の確認（筆 記による学力確認）を実施	到達度の確認を受験した者のみ採 点対象	やむを得ない理由により到達度の 確認を欠席した者
5	授業第 1 週から第 15 週の間に試 験・レポート等により評価	履修者全員	なし

※評価方法 3、4 を選択した場合、履修登録（変更）締め切り後、履修者数が講義実施教室の「試験定員」を超過している場合は、「3→1」、「4→2」にそれぞれ変更し、定期試験期間中に筆記試験を実施することになります。

当該クラスの担任者には、教務事務担当者からその旨を連絡しますので、担任者は直近の授業において、成績評価の方法が変更となる旨を受講生に直接説明するとともに、併せて関大 LMS 等でも周知してください。

シラバスに記載されている成績評価の方法を変更する必要がある場合は、春学期においては 4 月中旬から下旬頃、秋学期においては 10 月中旬から下旬頃に各担任者宛に連絡いたします。

(外国語科目)

プルダウンで選択する 成績評価方法	試験実施期間	採点対象	追試験等対象
4	授業 15 週目に到達度の確認（筆 記による学力確認）を実施	到達度の確認を受験した者のみ採 点対象	やむを得ない理由により到達度の 確認を欠席した者
5	授業第 1 週から第 15 週の間に試 験・レポート等により評価	履修者全員	なし

4 教科書・参考書

教科書及び授業の準備や予習・復習に役立つ参考書を記述してください。

学生はここに記述された「教科書・参考書」を購入するため、教科書と参考書は明確に区別し、著者、書名、出版社、ISBNは正確に入力してください。

5 フィードバックの方法

学生の学ぶ意欲を喚起するため、受講生全体または学生個別に対して授業内の小テスト、ミニッツペーパー、レポート等のフィードバックを予定している場合は記述してください。

6 担任者への問合せ方法

初期値に「オフィスアワー」と「その他」が挿入されています。「オフィスアワー」とは、学生と教員のコミュニケーションを充実させるために設けられた時間帯のことであり、授業外でのサポートの他、例①のように教室内での対応を含みます。学生が何らかの方法で教員に問合せできる仕組みをご提示ください。

シラバスはあらかじめ学生に提示し、授業の教育目標等を的確に理解するためのものであるため、「最初の授業時に指示する」とはせず、例示にあるとおり具体的な問合せ方法を記載してください。

< 担任者への問合せ方法（例示） >

オフィスアワー

- （例①）授業の前後に対応する。
- （例②）火曜3時限に個人研究室で対応する。

関大 LMS

- （例③）関大 LMS の「メッセージ」機能で連絡してください。

メールアドレス

- （例④）××××★kansai-u.ac.jp までメールをください。
※「★」記号を「@」に置き換えてください。

7 備考

受講上の注意などを記載してください。また、必要であれば、系統的に科目を修得していくうえで、「修得するまたは修得しておくことが望まれる科目」についても備考に記述をお願いいたします。

なお、「修得するまたは修得しておくことが望まれる科目」につきましては、「各学部・学科等からのお願い」が別紙にございます。ご確認くださいませようをお願いいたします。

学部・学科等からの要望が示されていない場合、「修得するまたは修得しておくことが望まれる科目」を記述する必要はありません。

< 修得するまたは修得しておくことが望まれる科目（例示） >

- ① 以下の科目を修得していることが望めます。未修得者は各自学習しておいてください。「経済学入門」、「基礎ミクロ経済学」
- ② 社会学史を修得するか修得しておくことが望ましい。
- ③ 1、2 年次配当の英語科目を修得しておくこと。
- ④ 論理回路、順序回路の科目を修得するか修得しておくことが望ましい。

シラバス記入上のポイント (対面授業)

学部・研究科 Faculty/Graduate School	法/文/経/商/社/ 政策/外/シ/環/化	時間割コード Course Code	00001
科目名 Course Title	教育論	授業形態/単位 Term/Credits	春/2
サブテーマ Subtitle		クラス Class	A1
担任者名 Instructor	〇 〇 〇 〇	曜日 Day/Period	火3
■授業概要 Course Description	授業種別 / Teaching Types		
到達目標 Course Objectives(必須) ※フリーフォーマット	講義(対面)		
	言語 / Language 【必須】		
	日本語(Japanese)		
	授業概要 / Course Description 【必須】		
	本講義では、「学ぶこと」「教えること」の質を高める教育実践について考えます。具体的には、新学習指導要領で提示されている「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、学習目標をどう設定し、その目標を達成するためにどのような教育方法、評価方法を選択することが望ましいのかについて、学習理論に基づきながら実践的に検討します。教育環境、方法、評価、教師の役割、授業設計について学び、子ども達の能力を最大限に引き出す教育実践のあり方を提案します。最終的には、実践力を培うため、21世紀を生き抜く新たな知識と能力を獲得するための教育実践を具体化する授業案を作成します。		
	学位授与方針との関係 / Related Diploma Policy		
	①知識・技能の観点		
	・		
	②思考力・判断力・表現力等の能力の観点		
	・		
	③主体的な態度の観点		
	・		
	到達目標 / Course Objectives 【必須】		
	①知識・技能の観点		
	・メディアを利用したいくつかの授業実践例とその効果と課題について説明できる。		
	②思考力・判断力・表現力等の能力の観点		
	・学習目標を達成するために適したメディアを選択し、それを活用した簡単な教材やワークショップをデザインできる。		
	③主体的な態度の観点		
	・ICTを活用した教育実践を実施しようとする意欲を高めることができる		
	授業手法 / Teaching Methods 【必須】		
	・教員による資料等を用いた説明や課題等へのフィードバック		
	・プレゼンテーション (スピーチ、模擬授業等含む)		
■授業計画 Course Content(必須)	授業計画 / Course Content 【必須】		
	第1回 「教える」と「学ぶ」の関係を考える		
	第2回 学習理論の変移		
	第3回 新しい学習理論の展開—社会的構成主義の学習観—		
	(中略) ※第4回~第12回の回数ごとに記入		
	第13回 演習 (授業デザインを考えてみよう)		
	第14回 演習 (授業デザインをシェアしよう)		
	第15回 新たな学びの形を引き出す教育とは		
	授業時間外学習 / Expected Work Outside of Class 【必須】		
	(例①) 本授業は、授業内にグループワークの時間を確保するため、教科書をまずは読んでおくことを予習として毎回の授業に課します。		
	(例②) 本授業では、授業後に課題を課します。次の授業までに関連LMSに提出してください。この課題にはおよそ30分程度かかります。		
	(例③) 本授業では採点から授業を開始しますので、事前に関連LMSにある小テストを受けてください。		
■成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies / Evaluation Criteria/ Assessment Policy(必須)	方法 / Grading Policies 【必須】		
	方法①:定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。		
	方法②:平常試験(小テスト・レポート等)100%		
	基準・評価 / Evaluation Criteria・Assessment Policy 【必須】		
	①知識・技能の観点		
	・基礎的な概念や用語の定義・内容を問う設問 (20%)		
	・語句説明問題 (20%)		
	②思考力・判断力・表現力等の能力の観点		
	・学説及び授業デザインを捉える視点に関する論述問題 (40%)		
	③主体的な態度の観点		
	・毎回の授業後に課す振り返り (10%)		
	・グループ活動への関与に対するルーブリックを用いた評価 (5%)		
	・授業に対する主体的な関与に関する観察者評価 (5%)		
■教科書 Textbooks	秋田 喜代美 『学びの心理学 授業をデザインする (放送大学叢書)』 (左右社)		
※著者欄、署名欄、出版社欄及びISBN欄あり	ISBN:4903500853		
■参考書 References	高垣マユミ 『授業デザインの最前線—理論と実践をつなぐ知のコラボレーション』 (北大路書房)		
※著者欄、署名欄、出版社欄及びISBN欄あり	ISBN:9784762827082		
■フィードバックの方法 Feedback Method ※フリーフォーマット	(例①) 関連LMSやインフォメーションシステムを通じて、最終試験結果の全体的な傾向をコメントします。 (例②) 中間時に実施した小テストについて、採点後に返却します。 (例③) 毎回の授業で実施したミニッツペーパーは、次回授業時に返却します。		
■担任者への問合せ方法 Contact the Instructor	オフィスアワー (例①) 授業の前後に対応する (例②) 火曜3時限に個人研究室で対応する 関連LMS (例③) 関連LMSの「メッセージ」機能で連絡してください メールアドレス (例④) ××××★kansai-u.ac.jpまでメールをください。 ※「★」記号を「@」に置き換えてください。		
■備考 Other Comments ※フリーフォーマット			

講義全体を通してのテーマ、講義内容の概略を明確に記述してください(学習者の持つ知識で理解できる範囲の言葉で記述してください)。

学部・研究科等の教育目標を意識して「到達目標」と「成績評価の基準・評価」を設定してください。

全授業回を対面としてください。(事前指定科目を除く)

初期値に①~③の「学力の3要素」が挿入されています。3要素全てを記述する必要はありませんが、①~③の項目名に沿って到達目標を記述してください。

授業時間外で学習する内容や1週あたりの時間など、学生が予復習に関する学習計画を立てられるようにご記入をお願いします。

初期値に①~③の「学力の3要素」が挿入されています。

学生の学ぶ意欲を喚起するため、課題やレポート等のフィードバックに関する方法を記載します。

受講生全体または学生個別に対して、授業内的小テスト、ミニッツペーパー、レポート等のフィードバックを予定している場合には、ご記入をお願いします(任意)。

オンデマンド配信授業の実施（シラバス作成）にあたって

オンデマンド配信授業とする科目は、学部等で事前に指定しています。オンデマンド配信授業をご担当される先生方は、次の内容を確認のうえ、シラバス作成をお願いします。なお、オンデマンド配信授業の実施方針は年度・学期や学部等によって異なる場合がありますので、年度・学期や学部等におけるオンデマンド配信授業の取り扱いに従って実施してください。

・オンデマンド配信授業の授業設計を考える……………p.10

オンデマンド配信授業の学習活動、授業デザイン、配慮すべき事項などが記載されていますので、オンデマンド配信授業を担当するにあたり、ご確認ください。

・シラバス記入上のポイント（オンデマンド配信授業）……………p.11

オンデマンド配信授業のシラバス記入にあたって、留意いただきたい事項を示していますので、ご確認ください。

・オンデマンド配信授業実施ガイドライン ……………p.12

オンデマンド配信授業を適切に実施するための方法等が記載されたガイドラインです。ガイドラインに則り、オンデマンド配信授業の実施をお願いします。

オンデマンド配信授業の授業設計を考える

1. オンライン授業と学習活動

オンライン授業には、同期型（リアルタイム型）、非同期型（オンデマンド型等）※ 授業があります。オンデマンド型授業は、講義を録画し配信することに加えて、受講生の学習活動を導入することが重要になります。学習活動を取り入れることで、学生が講義を通して学んだことを自ら確認できるからです。学生が学習目標に到達できたのかを判断する機会を得ることは、自律的な学習者の輩出につながります。

※同期型（リアルタイム型）、非同期型（オンデマンド型等）についても、学部等で事前に指定していますのでご注意ください。

2. オンライン授業のデザイン

オンライン授業を設計する際は、まず「授業目標」の設定をしましょう。その後、授業目標を達成できたのかどうかを判断できる「評価とフィードバックの方法」、また授業目標を達成するための「教育内容・教育方法（学習方法）」を選択しましょう。授業目標は、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的な態度の観点から設定をし、それぞれの観点到に適した評価の方法、教育内容・教育方法を考え、これらの項目がそれぞれ対応するように設計し、ずれがないように配慮しましょう。特に、評価の方法では学習活動の評価やフィードバックがどのように行われるのかを具体的に記述しましょう。オンライン授業に対する学生調査では、教員からのフィードバックがあることが学生の学習成果や動機付けにいい影響があったことが報告されています（教学 IR プロジェクト）。

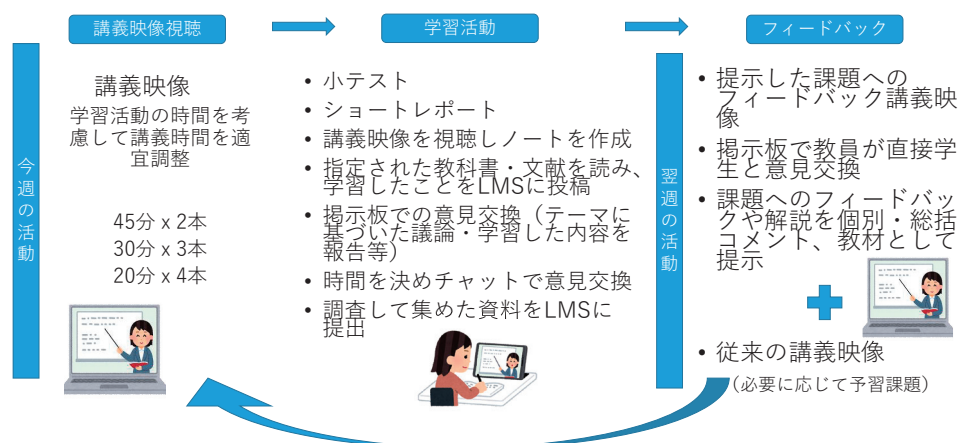
3. オンライン授業で配慮すべきこと

オンライン授業では、90 分授業における講義や学習活動の「時間配分」「学生へのケア」に配慮しましょう。「時間配分」では学生の集中力やモチベーションに配慮し、当該科目における知識や技能を学ぶために、例えば講義映像（20 分）を提供した後、習得した知識や技能を活用した思考・判断・表現を育むためにショートレポートや電子掲示板への投稿など学習活動（10 分）を取り入れる。この活動を 3 回行うことで 90 分の授業構成としたり、講義映像（30 分）に加えて、学習活動（15 分）を 2 回したりすることなども考えられるでしょう。

また、「学生へのケア」では学生が抱える躓きの内容を把握し、その支援をすることが重要です。例えば、いつでも質問できる手段を伝えたり、小テストやレポートで躓いている課題に対して補足説明をしたりして、学生が課題のやり方、内容、動機づけなど、学生が躓いている部分を把握し、学生をケアできる体制をとっておきましょう。

4. オンライン授業に関する相談

オンライン授業の設計、教授方法に関する問い合わせは「教育開発支援センター（ctl-staff@ml.kandai.jp）」まで、関大 LMS やシステムに関する問い合わせは「IT センター（itcsup@ml.kandai.jp）」までお願いします。



授業設計の構成要素（Online Learning Consortium（2020），岩崎（2022）23 頁より引用・編集）

シラバス記入上のポイント (オンデマンド配信授業)

【オンデマンド配信授業】シラバス作成にあたってのお願い

Point① 教材を配信するタイミングや公開期間を提示してください(各回の教材にも記載してください)。
 Point② 双方向性の確保や学生の意見交換の場の確保をお願いします。
 Point③ 学習方法(各回の構成、授業時間外学習の内容、担任等との連絡方法等)を提示してください。
 ※ その他留意点については、次ページの「オンデマンド配信授業実施ガイドライン」をご確認ください。

学部・研究科 Faculty/Graduate School	法/文/経/商/社/ 政策/外/シ/環/化	時間割コード Course Code	00001
科目名 Course Title	教育論	授業形態/単位 Term/Credits	春/2
サブテーマ Subtitle		クラス Class	A1
担任者名 Instructor	〇 〇 〇 〇	曜限 Day/Period	火3
■授業概要 Course Description	授業種別 / Teaching Types	講義(遠隔)	
到達目標 Course Objectives(必須) ※フリーフォーマット	言語 / Language 【必須】	日本語(Japanese)	
	授業概要 / Course Description 【必須】	本講義では、「学ぶこと」「教えること」の質を高める教育実践について考えます。具体的には、新学習指導要領で提示されている「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、学習目標をどう設定し、その目標を達成するためにどのような教育方法、評価方法を選択することが望ましいのかについて、学習理論に基づきながら実践的に検討します。教育環境、方法、評価、教師の役割、授業設計について学び、子ども達の能力を最大限に引き出す教育実践のあり方を提案します。最終的には、実践力を培うため、21世紀を生き抜く新たな知識と能力を獲得するための教育実践を具体化する授業案を作成します。	
	学位授与方針との関係 / Related Diploma Policy	①知識・技能の観点 ・ ②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 ・ ③主体的な態度の観点 ・	
	到達目標 / Course Objectives 【必須】	①知識・技能の観点 ・メディアを利用したいくつかの授業実践例とその効果と課題について説明できる。 ②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 ・学習目標を達成するために適したメディアを選択し、それを活用した簡単な教材やワークショップをデザインできる。 ③主体的な態度の観点 ・ICTを活用した教育実践を実施しようとする意欲を高めることができる	
	授業手法 / Teaching Methods 【必須】	・教員による資料等を用いた説明や課題等へのフィードバック ・プレゼンテーション(スピーチ、模擬授業等含む)	
	授業計画 / Course Content 【必須】	※講義資料は、原則、各授業回の1週間前(〇曜日)を目途に関大LMSに掲載します。なお、公開期間は資料掲載から〇日間とします。	
	第1回「教える」と「学ぶ」の関係を考える		
	第2回 学習理論の変移(中略) ※第3回～第14回の回数ごとに記入		
	第15回 新たな学びの形を引き出す教育とは		
	授業時間外学習 / Expected Work Outside of Class 【必須】	(例①) 本授業は、授業内にグループワークの時間を確保するため、教科書をまずは読んでおくことを予習として毎回の授業に課します。 (例②) 本授業では、授業後に課題を課します。次の授業までに関大LMSに提出してください。この課題には大よそ30分程度かかります。 (例③) 本授業では採点から授業を開始しますので、事前に関大LMSにある小テストを受けてください。	
	■成績評価の方法、基準・評価 Grading Policies / Evaluation Criteria/ Assessment Policy(必須)	方法 / Grading Policies 【必須】 方法①:定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 方法②:平常試験(小テスト・レポート等)100% 基準・評価 / Evaluation Criteria・Assessment Policy 【必須】 ①知識・技能の観点 ・基礎的な概念や用語の定義・内容を問う設問(20%) ・語句説明問題(20%) ②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 ・学説及び授業デザインを捉える視点に関する論述問題(40%) ③主体的な態度の観点 ・毎回の授業後に課す振り返り(10%) ・グループ活動への関与に対するルーブリックを用いた評価(5%) ・授業に対する主体的な関与に関する観察者評価(5%)	
	■教科書 Textbooks	秋田 喜代美 『学びの心理学 授業をデザインする(放送大学叢書)』(左右社) ISBN:4903500853	
	■参考文献 References	高垣マユミ 『授業デザインの最前線—理論と実践をつなぐ知のコラボレーション』(北大路書房) ISBN:9784762827082	
	■フィードバックの方法 Feedback Method ※フリーフォーマット	(例①)関大LMSやインフォメーションシステムを通じて、最終試験結果の全体的な傾向をコメントします。 (例②)中間時に実施した小テストについて、採点后に返却します。 (例③)毎回の授業で実施したミニッツペーパーは、次回授業時に返却します。	
	■担任者への問合せ方法 Contact the Instructor	オフィスアワー (例①) 授業の前後に対応する (例②) 火曜3時限に個人研究室で対応する 関大LMS (例③) 関大LMSの「メッセージ」機能で連絡してください メールアドレス (例④) x x x x ★kansai-u.ac.jpまでメールをください。 ※「★」記号を「@」に置き換えてください。	
	■備考 Other Comments ※フリーフォーマット		

講義全体を通してのテーマ、講義内容の概略を明確に記述してください(学習者の持つ知識で理解できる範囲の言葉で記述してください)。

学部・研究科等の教育目標を意識して「到達目標」と「成績評価の基準・評価」を設定してください。

Point①
教材を配信するタイミングおよび公開期間を提示してください。

Point②
学生の意見交換の場の確保など、学習成果を高める教育活動を取り入れてください。

Point③
各回の構成(動画〇分、ワーク〇分等)をできるだけ詳細に記載してください。

Point③
対面で実施する授業回には、(対面)と記載してください。

初期値に①～③の「学力の3要素」が挿入されています。3要素全てを記述する必要はありませんが、①～③の項目名に沿って到達目標を記述してください。

授業時間外で学習する内容や1週あたりの時間など、学生が予復習に関する学習計画を立てられるようにご記入をお願いします。

自由に選択してください。
※「到達度の確認(筆記による学力確認)」は除く。

初期値に①～③の「学力の3要素」が挿入されています。

学生の学ぶ意欲を喚起するため、課題やレポート等のフィードバックに関する方法を記載します。

受講生全体または学生個別に対して、授業内の小テスト、ミニッツペーパー、レポート等のフィードバックを予定している場合には、ご記入をお願いします(任意)。

オンデマンド配信授業実施ガイドライン

オンデマンド配信授業実施ガイドライン

2021 年 7 月 2 日制定

1 趣旨

本ガイドラインは、オンデマンド配信授業を適切に実施するための方法等について、必要な事項を次のとおり定めます。

2 オンデマンド配信授業実施要件

オンデマンド配信授業を実施するために必要な要件は次のとおりです。

(1) 学習支援システムの利用

オンデマンド配信授業は、本学の学習支援システム（関大 LMS 等）を利用して授業を実施します。

(2) 学習方法の提示

当該授業の目的・到達目標、教材を配信するタイミングや学習方法、時間外学習の内容、担任者との連絡方法等、授業に関する情報はシラバスおよび各回の教材に提示します。

(3) 教材の提示

各回の教材は、授業に関する文字、音声、静止画、動画等を組み合わせた内容とします。各回の教材に加えて、課題・演習等に取り組むにあたっての留意点、必要な視点・観点等を提示します。

各回の教材は、学年暦に基づく 15 回の授業計画に則し、毎週（回）提示します。なお、シラバスには教材を提示する曜日を明記します。

(4) 授業時間（回数）の確保

授業計画に則し、対面授業と同じく 90 分で 1 回の授業とすることを原則とします。ただし、教材に基づいて、課題・演習等を実施することも考えられます。授業としての学習時間が確保されるのであれば、教材そのものが 1 回 90 分である必要はありません。

各回の学習方法等はシラバスにも記載し、学生が学びやすいように提示します。

【例示：1 回の授業構成】

学習方法	学習時間
【対面授業における 1 回に相当すること】 ・動画教材による学習 ▽ 前回の復習（振り返り）や課題のフィードバック ▽ 1 章 15 分程度の動画教材を、3 章～4 章分提示し授業を構成 ▽ 取り組む演習課題、問い、確認テストの提示、それらの解説	授業時間に相当
【毎回の授業の実施にあたって併せ行うこと】 ・課題提示、質疑応答の機会提供、双方向性の確保による学習 ▽ 課題：関大 LMS によるレポート、テスト、アンケートの提示 ▽ 質疑応答：関大 LMS によるチャット、メールでの質問回答 ▽ 双方向性：掲示板を活用したディスカッションへのコメント、課題への助言 ・受講生同士の意見交換、グループワークによる学習 ▽ 意見交換：学生の小レポート、発表資料へのコメントやディスカッション ▽ グループワーク：テーマを設定し、関大 LMS 掲示板で小グループによる学生同士のワーク	授業時間外学習に相当

(5) 双方向性の確保

各回の受講が終了した後は、速やかに関大 LMS 等を利用し、設問回答、添削指導、質疑応答等による十分な指導をあわせて行います。

(6) 学生の意見交換の場の確保

関大 LMS 等を利用し、当該授業の学習内容に関する学生同士の意見交換の機会を確保します。担任者や TA/LA が話題設定や問いかけを行い、学生同士の意見交換が活発に行われるようにします。

(7) 学習効果の確認

学習効果を確認するため、授業に出席した学生の特定、教材の学習履歴を通して、当該授業による理解度や学習状況の確認を行います。なお、確認手段には、関大 LMS による課題や確認テストの実施等があるほか、クラウド型 VOD システム（製品名：Panopto）による動画教材の視聴履歴の確認等の方法があります。

3 成績評価の方法

オンデマンド配信授業の成績評価方法は、原則として平常点による評価としますが、対面による筆記試験等も可能とします。対面授業と同様に、成績評価基準に基づき「素点（0～100 点）」による評価を行います。

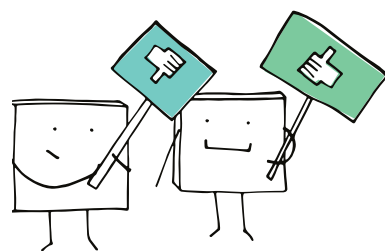
4 オンデマンド配信授業実施における留意事項

オンデマンド配信授業では、著作権法等の各種法令、本学の個人情報保護規程、遠隔授業に関連する本学が発信する情報等に従って実施することとします。また、特に次の事項についてご留意願います。

- 特定の個人を識別できる情報を、あらかじめ本人の同意なく配信しない
- 教材の配信、確認テスト等にあたって、適切な配信期間を確保する
- 多様なデバイスで想定して、教材の可読性（文字の大きさ等）に配慮する
- 特殊なソフトウェアを必要とする課題は課さない
- 学生の通信料負担軽減のため、教材の容量を圧縮する

以 上

II 大学教育の TOPICS



1 授業設計と実施

TOPIC ① 授業時間外学習を促すコツ

1. シラバスで計画的な学習を促す
2. 毎回の授業で小テストを行う
3. グループで取り組む課題を出す
4. 課題には必ずフィードバックを行う
5. 課題内容を精査する
6. 関大LMSなどの学習支援サービスを活用する



TOPIC ② アクティブラーニングの推進

「考動力（自らの頭で自主的によく考え、自律的かつ積極的に行動する力）」を身につけるためには、従来の講義型の授業に加えて、書く、話す、発表する等の活動への関与と認知プロセスの外化（溝上、2014）が必要と言われています。

教育開発支援センターでは、アクティブラーニングの推進に向けて、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションなどの他の授業の知見や情報の提供を行っています。また、同時に TA（ティーチング・アシスタント）・LA（ラーニング・アシスタント）など学生の教育力を活用するための取組・支援を行っています。

事例集である「アクティブラーニング読本」シリーズ1～5をこれまでに発行してきました。グループワークやルーブリックなどを主なテーマとして発行し、全国の先生方からお取り寄せいただいています。目次は（<https://www.kansai-u.ac.jp/ctl/teacher/tool.html#al>）からご確認ください。本誌をご覧になりたい方は、以下までお問合せください。アクティブラーニングの導入の具体的な相談があれば、同様に以下までご相談ください。

【問合せ先】 メール：ctl-staff@ml.kandai.jp

溝上慎一（2014）『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』 東信堂



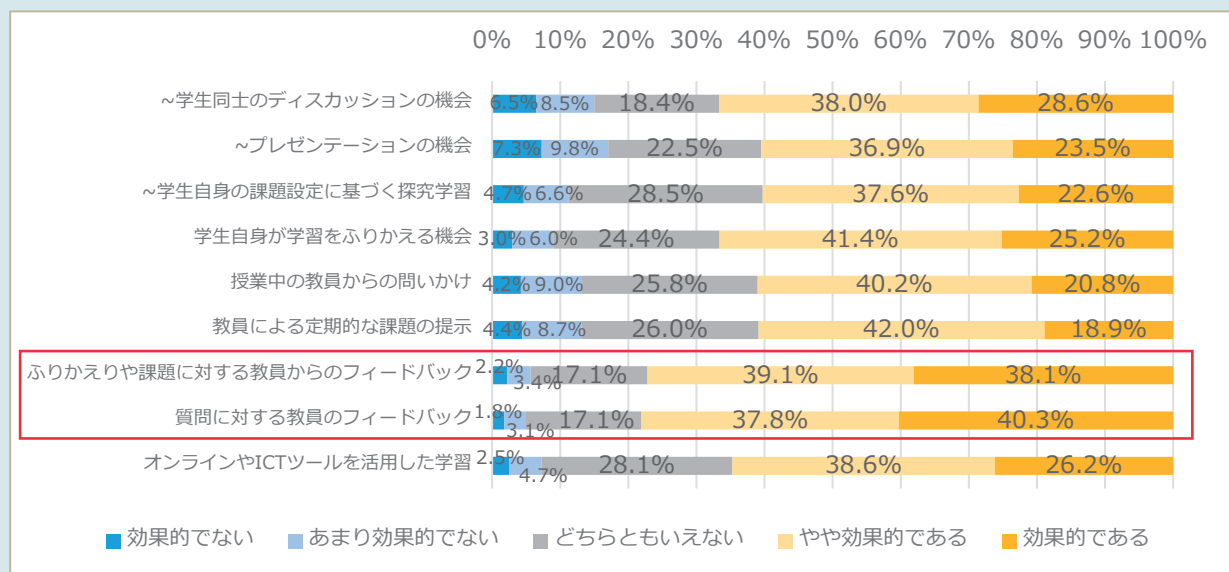
TOPIC ③ 学習意欲や学習効果を高める「教員からのフィードバック」の有効性

教学 IR プロジェクトでは、2021 年 7 月に「2021 年度春学期 授業・学生生活に関するアンケート」を全学生対象に実施しました（学部生有効回答：5,591 件、回答率：20.2%）。

対面か遠隔にかかわらず、学生が学習意欲や学習効果を高める活動として、「授業の振り返り・課題・質問に対する教員からのフィードバック」が効果的であるとの声が最も多く寄せられました。

これらを受けて、ご自身の担当科目においても、可能な限り、質問や作成した課題に対するフィードバック（解答の提示、個別あるいは全体講評等）などの教育活動を取り入れていただくことで、学生の学習成果の高まりにつながるかもしれません。その他、各学生調査の結果は、教学 IR プロジェクトウェブサイト（下記参照）から確認することができますので、ご自身の授業設計等の参考にできれば幸いです。

【Q. 学習意欲や学習効果を高めるうえで、以下のような方法はどのくらい効果的ですか】



【調査結果（教学 IR プロジェクトウェブサイト）】

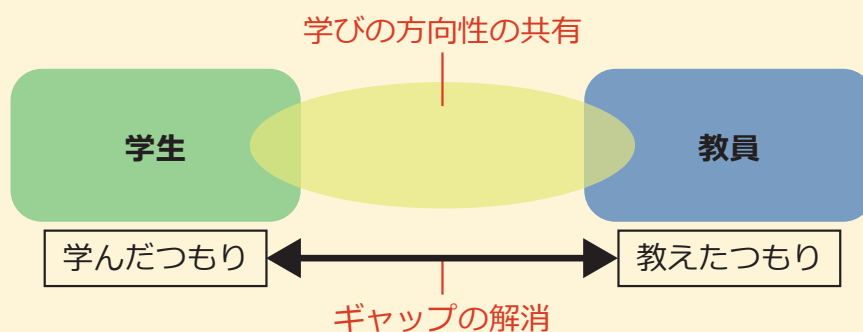
URL : <https://www.kansai-u.ac.jp/ir/research/index.html>



2 学習評価と学習成果

TOPIC ④ ルーブリックの評価を授業でどのように使うのか

授業で使用するルーブリックには、学習活動を通して学生に到達してもらいたい評価観点とその内容が具体的に示されます。特定の課題について、予め学生に提示したルーブリックの観点に照らして、学習成果を評価します。その観点について、学生も教員も「できている」と評価する場合には、観点到記された学習成果については、一定の到達がなされているものとみなせます。一方、学生が「できている」と評価していても、教員が「できていない」と判断しており、学生と教員との間で異なった評価となるのであれば、その内容は教員が優先的に授業で取り上げるポイントとなります。実際の指導場面において、評価に照らしてどんなギャップがみられるのか、クラスで共有するのも良いでしょう。授業でこれからどんな学びが求められるのかについて、その方向性を共有することにつながるからです。学びの方向性を適切に共有するには、一歩進んだ学習成果物と共に、うまくできているポイントを改めて教示し、どうすればそこに近づけるようになるのかなどについて、評価に基づく振り返りの活動を要所で取り入れることが効果的です。振り返りの活動にルーブリックの評価を取り入れることを通して、学生はより納得感を持って、学習成果を意識し、自己評価能力を育みながら学びに向かうことが期待されます。



学生・教員間のギャップを解消し、学びの方向性の共有を支援するルーブリック

TOPIC ⑤ 「ルーブリックの使い方ガイド」の閲覧・入手

「ルーブリック」とは、文章作成や口頭発表、実習、グループワークなどのパフォーマンス課題を評価するツールです。

教育開発支援センターでは、ルーブリックを導入する際の教員の評価負担・説明負担の軽減や、学生の評価活動への関与を促すことを目的として開発された、「ルーブリックの使い方ガイド」を公開・配付しています。本ガイドには、ルーブリックの作成方法やサンプルを掲載した「教員用」と、学生向けにルーブリックの使い方を説明した「学生用」の2種類があります。いずれも下記ウェブサイトよりダウンロードいただけます。ぜひ活用ください。

【ルーブリックの使い方ガイドの入手先】

URL : <https://www.kansai-u.ac.jp/ctl/teacher/tool.html#rubric>



TOPIC ⑥ ニューノーマルの学習評価をどう考え実施するのか

学習評価とは、「学習実態を把握し、適切なフィードバックを行い、学習活動の成果を学習目標に照らして判断する営み」(山田、2018)です。学習評価は、授業が始まってから終わるまで全ての過程において、学生の学習活動を促す上で重要な役割を果たします。以下、ニューノーマルの学習評価を実施する際の4つのポイントについて紹介します。

(1) 試験方法を工夫する

遠隔授業において正誤問題等の知識を問う場合に生じる不正行為等のリスクを低減させる工夫として、「予め問題群をプールしておいて、試験問題のパターンを複数用意する」「試験問題の提示順をランダムにする」「小問ごとや一問ごとなど、解答時間を細かく区切る」などがあります。

(2) 試験問題を工夫する

知識そのものを問うのではなく、「問題自体を資料参照やネット検索にも耐えられるものにする」「解答に加えて、解答手順や使用した法則・原理も記述させる」「学習した概念やキーワードの関係性を図示(コンセプトマップ)し、説明させる」など、試験問題を工夫することも効果的です。

(3) 評価方法を検討する

最終試験のみで判断するのではなく、授業内外での小テストや論述・レポート、振り返り、アンケート、自己評価・相互評価等の提出や内容など、多様な評価方法を用いることが効果的です。

(4) ICT ツールを活用する

大学独自のLMSはもちろん、学生の意見を集約・可視化するICTツールも多く存在します。これらを活用することで学生との双方向性が確保できるとともに、評価負担の大幅軽減が見込まれます。

授業形態の違いによる評価方法の比較

	筆記試験 (客観テスト)	論述・レポート	平常点 (振り返り含む)
教室での対面授業	①教室の監督下で不正行為を防ぎつつ一斉に実施が可能	③課題(ルール・締切等)を明示し、実施・回収・採点	④授業後にミニッツペーパー等を用いて実施・回収・採点
オンライン授業 (同期型/非同期型)	②実施自体は可能だが、閲覧・検索・相談等の制御が困難	(*ICT活用で効果的・効率的な実施が可能)	(*ICT活用で効果的・効率的な実施が可能)

山田剛史(2018)「学習評価の意義と課題を理解する」中島英博編『学習評価(シリーズ 大学の教授法 4)』玉川大学出版部, pp.2-9.

TOPIC ⑦ 「授業評価アンケート」から学習成果を問う「授業アンケート」へ

より質の高い教育を行うためには、直接学生の声を聞き授業に反映させることが必要であるとの認識に立って、2000年度から授業評価アンケートが開始されました。2011年度には、質問内容の変更、教員への「フィードバックシート」の返却、教員版アンケートの実施等の見直しが行われ、個々の授業改善につなげるアンケートとして定着してきました。

2020年度からは、従来の教員のパフォーマンスを問う質問項目に加え、学生自身が自らの学習を振り返る項目を追加しました。シラバスで示された到達目標を達成できたのかという到達度と、学習時間などの行動調査がその内容です。その意味においても、学部・研究科等の教育目標と科目の到達目標や評価方法の関係をシラバスの中で整理して示す必要があり、特に到達目標などは、わかりやすい形で学生に明示してアンケートによる振り返りを実施していただくことが授業改善のための有効な手立てとなります。

また、従来マークシート方式で実施していたアンケートをウェブ方式で実施することになり、即応性が高くなりました。より授業改善に活用しやすいアンケートになっておりますので、ぜひご協力ご活用ください。なお実施目的や手順の詳細、担任者独自質問の設定方法、クロス集計の確認、ローデータのダウンロード方法等は、下記 URL または QR コードの「実施手順」をご覧ください。

URL : <https://www.kansai-u.ac.jp/ctl/support/questionary/>



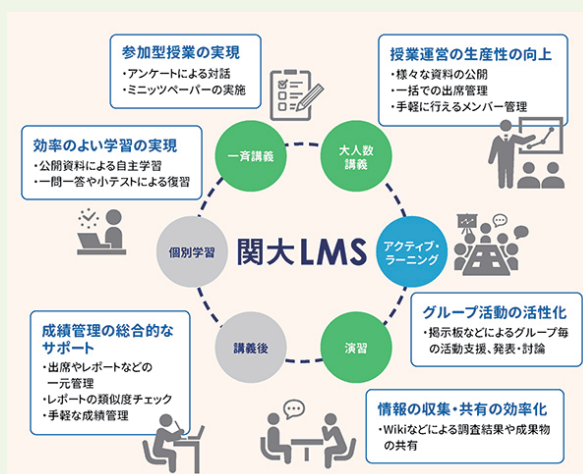
3 教育支援と学習リソース

TOPIC ⑧ 教育支援ツールの紹介

アクティブラーニングの推進や教員と学生のインタラクティブな環境を充実させるために、多様な教育支援ツールがあります。教育開発支援センターでは、様々な教育支援ツールの開発・推進及び教育支援サービスの提供を行っています。

・関大 LMS (Learning Management System) : 関大 LMS とは、予習・復習の指示、課題レポートの提出、各種テスト、授業に関する質問受付・回答などの授業を補完できる学習支援システムのことです。その他にも、「資料公開」の機能もあり、様々なメディアの資料をすぐアップできます。スマホからのアクセスも可能で、学生はどこからでも資料閲覧が可能です。2022 年度より、動画の収録・編集・配信を一元管理できるクラウド型動画編集配信ソフト (Panopto (パノプト)) を全学的に導入しました。自動字幕をはじめとした様々な編集機能や学生の視聴履歴や視聴完了率などを確認することなどが可能となりました。詳細は教育開発支援センターのウェブサイトに掲載している「クイック操作ガイド」及び「アンケート教材作成・操作マニュアル」等の機能別のマニュアルをご確認ください。

・その他: グループワーク等の実施には「nu board (ヌーボード)」や「ライティングシート」が便利です。「nu board」は貸し出しを行っています。興味・関心のある方は遠慮なく、教育開発支援センターにお立ち寄りください。またはメール (ctl-staff@ml.kandai.jp) でのご連絡をお待ちしています。



TOPIC ⑨ 学部学生の日本語の文章作成をサポートする「ライティングラボ」

ライティングラボは学生のライティング (文章作成) をサポートしています。文章作成の指導・支援にご活用ください。おもな支援内容は次の通りです。

- ・各キャンパスのライティングラボで、訓練を受けたチューターが対面による個別相談を行っています。関西大学の学部生、大学院生であれば、だれでも相談することができます。
- ・対面相談に加えて、Zoom を使ったオンライン相談を 2020 年度から開始しています。
(教員の希望に沿った指導を行うことも可能です。)
- ・だれでも参加できる授業外セミナー「ワンポイント講座」を実施しています。
- ・授業に赴き、ライティングラボの利用方法やライティングの基本的な知識を解説する出張講座を実施しています。
- ・その他、ライティングに関するガイドブックの発行など、ライティングにかかわる様々な支援をしています。

【ライティングラボのウェブサイト】

URL : <https://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/index.html>



TOPIC ⑩ 教育・学習における ChatGPT 等の生成系 AI ツールの利活用について

本学では、教員の教育活動や学生の学習活動における ChatGPT 等の生成系 AI ツールの利活用について、以下のような方針を掲げています。

・生成系 AI ツールは、教員の教育活動の質的向上や業務の効率化に寄与する可能性を有するものです。また、学生が学習を進めるにあたり、生成系 AI ツールを活用することによって自らの思考を整理し、対話形式によって学習内容の理解をすすめることは、学習効果を高めることが期待されます。

・ただし、その生成された文章、翻訳、質問応答等には、精度が高い情報から、誤り、剽窃等を含むものまであり、その評価は信頼できるものには至っていません。私たちは、教育活動や学習活動をすすめるにあたり、生成されたものに対する検証や評価をすることが常に必要です。そのためには、生成系 AI ツールを正しく活用するためのスキルを身につける必要があり、倫理的な問題についても理解しなければなりません。

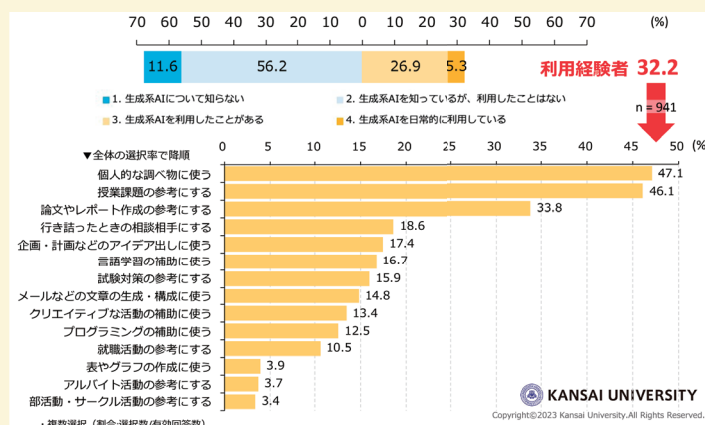
・また、その生成された文章、翻訳、質問応答等には、個人情報や機密情報の漏洩、セキュリティ上の課題が存在していることも認識しておく必要があります。生成されたものの取扱いは、慎重であることが求められます。また、自身が生成系 AI ツールに情報を入力する際には、これらの点について十分注意することが必要です。

上記の提言内容を踏まえると、生成系 AI は人間と自然に対話しているように思えても、文章の意味内容を理解して応答しているわけではないことには注意を払う必要があります。つまり学生への指導上の留意点としては、生成系 AI が作成した文章を自分の文章であるかのようにふるまうことについては、授業で適宜注意を促すことが求められます。

なお教学 IR プロジェクトでは、「2023 年度 春学期の授業・学生生活に関する学生アンケート」を 7 月に全学生を対象として実施しており（学部生有効回答：2,955 件、回答率：10.7%）、そこでの調査結果をみると、学生の生成系 AI の利用率は 3 割にのぼり、利用目的は、「個人的な調べ物」「授業課題の参考」が特に高いことがわかっています。

生成系 AI 系ツールの効果的な活用について、教育開発支援センターを中心に今後も紹介されていく予定です。

【Q. 学習意欲や学習効果を高めるうえで、以下のような方法はどのくらい効果的ですか】



【関西大学 (2023) 教育・学習における ChatGPT 等の生成系 AI ツールへの対応について】

URL:
https://www.kansai-u.ac.jp/ja/about/pr/news/2023/04/post_70904.html



【関西大学教学 IR プロジェクト (2023) 「2023 年度 春学期の授業・学生生活に関する学生アンケート」】

URL:
<https://www.kansai-u.ac.jp/ir/archives/2023/09/2023-1.html>



TOPIC ⑪ 障がいのある学生の修学支援における合理的配慮の提供について

令和 3 年に障害者差別解消法が改正され、令和 6 年 4 月 1 日より、国公立、私立を問わず、すべての大学等において、障がいのある人への障がいを理由とする不当な差別的取扱いの禁止及び合理的配慮の提供が義務化されました。この法改正により、大学教育においても、より一層の対応が求められています。合理的配慮とは、修学上の困難さがある障がいのある学生に対して、教育（授業）の目的・内容・評価の本質を変更せず、実施に過重な負担がない範囲で、社会的障壁を取り除くための変更や調整を行うものです。詳しくはインフォメーションシステム内「教務手帳」「障がいのある学生の修学支援（教職員のためのガイドブック）」を参照ください。